

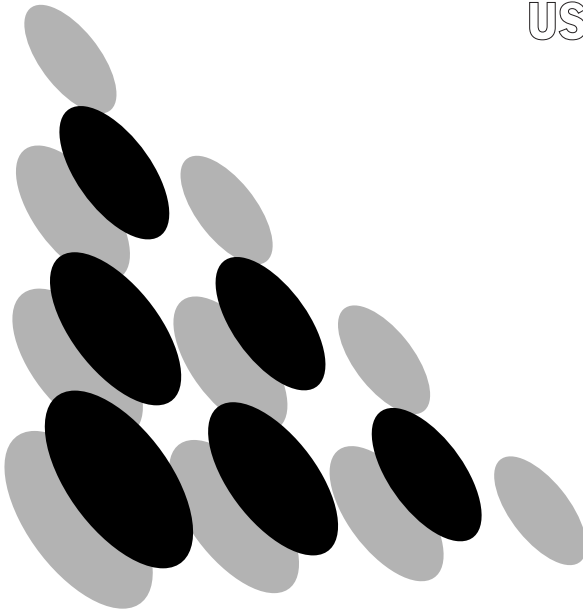
PRIMERGY

リモートサービスボード搭載キット
(PG-RSBOP6)

取扱説明書 J

Remote Service Board Kit
(PG-RSBOP6)

USER'S GUIDE E



はじめに

このたびは、弊社のリモートサービスボード搭載キット PG-RSBOP6（以降、本製品と記述）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は、本製品の取扱方法を説明しています。

本書をご覧になり、本製品を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2002 年 4 月

J

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2002

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また、本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。本書では、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印として、以下のマークとともに表示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

■万一、異常が発生したとき



プラグ

万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

■ACアダプタの使用環境条件について



温度

リモートサービスボードに添付のACアダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が0～35℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が35℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。



感電

本製品をサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。ACアダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります、また感電の原因となります。

禁止

- ・ 本製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災・感電の原因となることがあります。
- ・ ACアダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ ACアダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ ACアダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

プラグ

近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラーケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

警告

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

分解

本製品を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因になります。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- ・ 使用中の AC アダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。
- ・ 電源プラグを抜くときはケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルの芯線が露出したり切断したりして、火災・感電の原因となることがあります。

指示

- ・ 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。
- ・ 本製品をご使用にならない場合は、静電気防止のため付属の梱包袋へ入れて保管してください。

J

■電池の取り扱いについて



警告

使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。電池の破壊、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

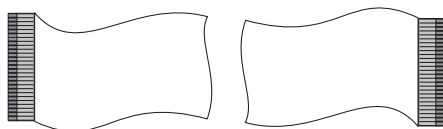
指示

電池を取り付ける場合、極性のプラス（+）とマイナス（-）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

梱包物の確認

本製品には以下のものが梱包されています。お使いになる前に必ずご確認ください。万一、足りないものがございましたら、恐れ入りますが担当営業員までお申しつけください。

- サーバ制御ケーブル



- 電源ケーブル



- 取扱説明書（本書）

本書の表記について

■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体

本製品を取り付けるサーバのことです。

👉ポイント

本文中の内容を補足することが書いてあります。

目次

第1章	本製品について	1
第2章	本製品の取り付け	2
	2.1 作業をはじめるまえに	3
	2.1.1 用意するもの	3
	2.1.2 確認すること	4
	2.2 取り付け	5
	2.2.1 PCI カード／内部ケーブルの取り付け	5
	2.2.1.1 サーバ本体への取り付け	6
	2.2.2 AC アダプタの接続	8
	2.2.3 システム資源の設定	9
	2.2.4 ファームウェアのアップデート	10
第3章	ドライバのインストール	12
第4章	対応ソフトウェアについて	13
第5章	LAN／モデムの接続	14
	5.1 LAN ケーブルの接続	14
	5.2 モデムの接続	15
第6章	本製品の取り外し	16
付録		17
	1 SERVICE PROCESSOR TOOL	17
	2 留意事項	24

第 1 章 本製品について

この章は、本製品の特長について解説しています。

本製品は、リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、ご使用になるためのキットです。本製品には、リモートサービスボードとサーバ本体を接続するケーブルが含まれています。

▼ポイント

リモートサービスボードは、別製品（PG-RSB101）です。
リモートサービスボードについては、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。
取り付け方法については、本書の「第 2 章 本製品の取り付け」を参照してください。

第2章 本製品の取り付け

この章は、リモートサービスボードおよび本製品のケーブルをサーバ本体に取り付ける方法を説明しています。

リモートサービスボードをご使用になるために、以下の流れ図に従って、リモートサービスボードの取り付け、ServerView のインストール、LAN／モデムの接続を行ってください。

1. 準備
↓ → 「2.1 作業をはじめるまえに」
2. サーバ本体への取り付け
↓ → 「2.2.1 PCI カード／内部ケーブルの取り付け」
→ 「2.2.1.1 サーバ本体への取り付け」
3. ACアダプタの接続
↓ → 「2.2.2 ACアダプタの接続」
4. システム資源の設定
↓ → 「2.2.3 システム資源の設定」
5. ファームウェアのアップデート
↓ → 「2.2.4 ファームウェアのアップデート」
6. ドライバのインストール
↓ → 「3 ドライバのインストール」
7. LAN／モデムの接続
LANを使用する場合 → 「5.1 LANケーブルの接続」
モデムを使用する場合 → 「5.2 モデムの接続」

2.1 作業をはじめるまえに

サーバへ取り付ける作業をはじめるまえに、あらかじめ以下の準備を行ってください。

2.1.1 用意するもの

作業をはじめるまえに、以下のものをご用意ください。

- リモートサービスボード
- サーバ本体に添付の取扱説明書
- サーバ本体に添付の ServerView CD
- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
ServerStart CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。詳細は、「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照してください。
 - 1 ServerStart の CD-ROM からシステムを起動します。
 - 2 ServerStart の画面で「フロッピービルダ」をクリックします。
 - 3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。
メッセージに従ってサーバ本体に添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
 - 4 以降は画面のメッセージにしたがって作業を続行します。
自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。
- Remote Service Board Utility
ServerView CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。
 - 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意します。
 - 2 ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにある全てのファイルを 1 のフロッピーディスクにコピーします。
 <CD-ROM のドライブ>:\\$Svmanage¥Tools¥RSBFlash
 - 3 スタートメニューから、コマンドプロンプト画面を表示します。
 Windows NT の場合
 「スタート」－「プログラム」－「コマンドプロンプト」をクリックします。
 Windows 2000 の場合
 「スタート」－「プログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。
 - 4 コマンドプロンプト画面にて、次のコマンドを入力します。
 a: [Enter]
 abset [Enter] (ファイル属性が変更されます。)
 - 5 フロッピーディスクを取り外し、書込み禁止状態とします。

ポイント

Linux システムで Remote Service Board Utility を作成する方法は、V03.10 L10 以降の ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

2.1.2 確認すること

作業をはじめる前に、以下の事項に該当するかどうかをご確認ください。

- ServerView による電源オン/オフタイマーが有効となっている

👉ポイント

電源オン/オフタイマーを無効にしてください。

タイマー機能が有効である状態でリモートサービスボードを搭載した場合、以後のタイマー機能が正しく動作しません。タイマー機能を使用する場合には、リモートサービスボードを搭載した後、タイマーを再度設定してください。

電源オン/オフタイマーの設定ウィンドウは、下記手順で開くことができます。

- 1 ServerView により対象サーバの情報を開きます。
- 2 [電源] ボタンをクリックします。

2.2 取り付け

ここでは、リモートサービスボードおよび本製品のケーブルの取り付け手順について説明します。

取り付けをはじめるまえに、本書の「2.1 作業をはじめるまえに」を参照し、必要な作業を行ってください。

2.2.1 PCIカード／内部ケーブルの取り付け

ここでは、リモートサービスボードと本製品のケーブルの取り付け手順を説明します。



感電

本製品をサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。ACアダプタの電源プラグもコンセントから抜いてください。電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります、また感電の原因となります。

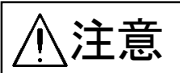


指示

- ・サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体に添付の取扱説明書にしたがって作業を進めてください。
- ・本製品のPCIカードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

2.2.1.1 サーバ本体への取り付け

ここでは、サーバ本体にリモートサービスボードと本製品のケーブルを取り付ける手順を説明します。



注意

指示

サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体に添付の取扱説明書にしたがって作業を進めてください。

■取り付け手順

1. サーバ本体添付の取扱説明書を参照し、リモートサービスボードと本製品に添付されているケーブル（サーバ制御ケーブル、電源ケーブル）を取り付けます。

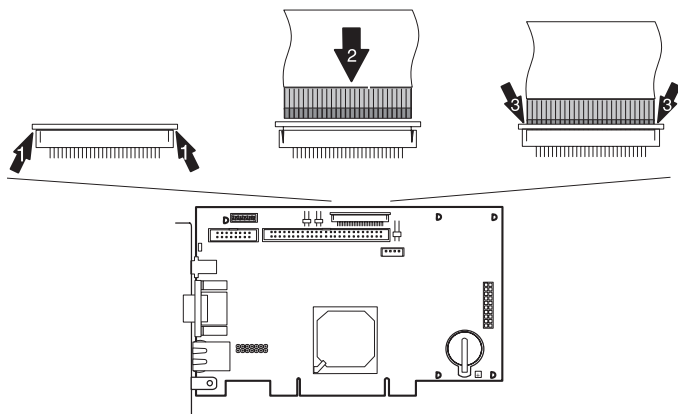
👉ポイント

リモートサービスボードを取り付けると、サーバ本体の電源投入後、画面が表示されるまでに1分程度かかることがあります。これは、サーバ本体のBIOSがリモートサービスボードと通信するために、リモートサービスボードが起動するのを待っている場合に発生します。故障ではありませんので、そのままお待ちください。

■サーバ制御ケーブルの取り付け

サーバ制御ケーブルをリモートサービスボードに接続する場合は、ケーブルのピン（青いテープが貼られていない側）が、リモートサービスボード側になるようにして接続します。

ロックを上側にずらして解除し（矢印1）、サーバ制御ケーブルを奥まで差し込み（矢印2）、ロックを下げて固定します（矢印3）。



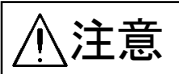
2.2.2 ACアダプタの接続

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付け、サーバ本体のカバーを取り付け終えたら、リモートサービスボードのACアダプタを接続します。



禁止

- ・ ACアダプタを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- ・ 濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ ACアダプタが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ ACアダプタの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ・ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。



禁止

- ・ マニュアルに記載されていないACアダプタは使用しないでください。また、ACアダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- ・ 使用中のACアダプタは、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因となります。

温度

リモートサービスボードのACアダプタは、サーバ本体の動作状態（動作時・休止時）にかかわらず、周囲温度が0～35℃の環境を守ってご使用ください。特に夏場は、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が35℃を超えないようにしてください。温度条件が守られないと、火災・故障の原因となります。

■ 取り付け手順

1. AC アダプタをリモートサービスボードに接続します。
リモートサービスボードに添付の AC アダプタの本体と電源ケーブルを接続し、さらに AC アダプタのプラグをリモートサービスボードの外部電源用コネクタに接続します。
2. AC アダプタの電源プラグをコンセントに接続します。

▶ ポイント

リモートサービスボードは、AC アダプタからの電源供給またはサーバ本体からの電源供給で動作しますが、サーバの電源異常監視を行うために AC アダプタが必要です。信頼性の向上のため、リモートサービスボードの AC アダプタの電源プラグは、サーバ本体の電源プラグを接続した電源とは異なる電源に接続することをお勧めします。

2.2.3 システム資源の設定

リモートサービスボードをサーバ本体に取り付けたあとで、システム資源の設定を確認します。

しかし、本製品に割り付けることができるシステム資源には制約がある場合があります。サーバ本体添付の取扱説明書を参照し、システム資源の割り付けについての制約を確認してください。

さらに、本製品をサーバに取り付けたあとで、本製品に割り付けられたシステム資源を確認し、必要に応じて変更してください。

本製品に割り付けるシステム資源の確認および変更の方法は、サーバ本体に添付の取扱説明書を参照してください。

2.2.4 ファームウェアのアップデート

ここでは、リモートサービスボードのファームウェアのアップデートの手順を説明します。本処理では、アップデートの他に初期設定も行いますので、必ず実施してください。

■アップデート手順

1. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
2. 表示されるメニューから、「Basic(RAIDUTIL)」を選択し、[Enter]キーを押します。
MS-DOS が起動します。
3. サーバ本体のフロッピーディスクドライブに、Remote Service Board Utility をセットします。
4. ファームウェアをアップデートします。
次のコマンドを入力します。
b:\flashrsb [Enter]
5. アップデートの完了を確認します。
アップデートが正常に完了した場合には、次のメッセージが表示されます。
OK: Firmware flash successfully finished
アップデートが失敗した場合には、次のメッセージが表示されます。
ERROR: Firmware flash failed
6. アップデートが正常に完了した場合には、ファームウェアの版数を確認します。アップデートした版数は、処理開始時のメッセージに表示されています。
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx
次のコマンドを入力します。版数の参照方法は、本書の『付録 1.3 版数の参照』を参照してください。
b: \sptool [Enter]

■ アップデート再実行手順

ファームウェアのアップデートが失敗した場合は、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。万が一、サーバ本体が起動しなくなった場合には、以下の作業を実施してください。

1. サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
2. リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。
3. 10 秒以上経ってから、リモートサービスボードの AC アダプタを接続します。
4. サーバ本体の電源ケーブルを接続し、サーバ本体および周辺装置の電源を投入します。
5. ファームウェアのアップデートを再度実施します。

上記作業を行っても正常に動作しないような場合には、本製品を取り外し、弊社担当保守員にご相談ください。

👉 ポイント

ファイル属性の設定を行わずに Remote Service Board Utility を作成した場合、ファームウェアのアップデート時に次のメッセージが表示されます。

ファイル属性の設定を行なった後、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。

```
ERROR : File <core.bin> could not be opened!  
ERROR : Firmware flash failed
```

第3章 ドライバのインストール

この章は、リモートサービスボードのドライバのインストールについて説明しています。

リモートサービスボードのドライバは下記のソフトウェアに含まれています。

— ServerView V03.02 以降

👉 ポイント

リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerView に含まれています。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体に ServerView をインストールしてください。

Windows 2000 において、OS 起動時にハードウェアの検出ウィザード画面が表示される場合がありますので、次のように処置してください。

- ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」が表示された場合 [キャンセル] を選択してください。
- ・「新しいハードウェアの検出ウィザードの完了」が表示された場合 [完了] を選択してください。

すでに上記の ServerView がインストールされている場合、または、上記の ServerView をインストールした後、「留意事項 2.3 ServerView のインストールについて」に記載の処理を行ってください。

ServerView は、サーバ本体に添付の ServerView CD に収録されています。

ServerView のインストール方法については、サーバ本体に添付の「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照してください。

ServerView の使用方法については、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

第4章 対応ソフトウェアについて

この章は、リモートサービスボードに対応するソフトウェア（ServerView、RemoteControlService）について説明しています。

リモートサービスボードに対応するソフトウェアは、以下の通りです。

ー ServerView V03.02 以降

サーバの状態監視、遠隔操作が行えます。

👉ポイント

リモートサービスボードのデバイスドライバは、ServerViewに含まれています。また、リモートサービスボードによるサーバの状態監視、および、遠隔操作は、ServerViewのエージェントとの連携により実現している処理があります。リモートサービスボードをご使用になる場合、必ずサーバ本体にServerViewをインストールしてください。

ー RemoteControlService V3.00 以降

サーバ本体のPOST時の画面表示、キーボード入力を管理端末から行えます。

👉ポイント

RemoteControlServiceは、BIOSセットアップユーティリティ等を遠隔操作で行いたい場合、管理端末にインストールしてください。

ServerViewとRemoteControlServiceは、サーバ本体に添付のServerView CDに収録されています。

👉ポイント

V2.05以前のRemoteControlServiceが既にインストールされている場合、アンインストールしてからV3.00以降のRemoteControlServiceをインストールしてください。

ServerView、RemoteControlServiceのインストール方法については、サーバ本体に添付の「PRIMERGYソフトウェアガイド」を参照してください。

ServerView、RemoteControlServiceの使用方法については、ServerViewのCD-ROM内の「ServerViewユーザーズガイド」を参照してください。

第5章 LAN／モデムの接続

この章は、リモートサービスボードに LAN およびモデムを接続する方法を説明しています。

リモートサービスボードに LAN、モデムを接続することにより、管理端末からリモートサービスボードにアクセスしてサーバを制御したり、リモートサービスボードから異常通知（SNMP トラップ、E-mail、ポケットベル）を送信したりできるようになります。



注意

リモートサービスボードには、下記のユーザアカウントが初期設定されています。運用を始める前に、必ずパスワードを変更してください。変更方法は、ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

ユーザ名 : root パスワード : fsc

ポイント

LAN ケーブル、モデムおよびモデム用 RS-232C ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。

5.1 LANケーブルの接続

ここでは、リモートサービスボードに LAN ケーブルを接続する手順を説明します。

ポイント

リモートサービスボードには、以下の IP アドレスが初期設定されています。リモートサービスボードをネットワークに接続する前に、必要に応じて IP アドレスを変更してください。変更方法については、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

IP アドレス : 192.168.0.10

サブネットマスク : 255.255.255.0

■取り付け手順

1. LAN ケーブルをリモートサービスボードに接続します。
用意した LAN ケーブルのコネクタを、リモートサービスボードの 10/100BASE-TX コネクタに接続します。
2. もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

5.2 モデムの接続

ここでは、リモートサービスボードにモデムを接続する手順を説明します。



感電

接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。

■取り付け手順

1. RS-232C ケーブルをリモートサービスボードに接続します。
RS-232C ケーブルのコネクタ（9 ピン）を、リモートサービスボードのシリアルポートコネクタに接続します。
2. RS-232C ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、もう片方のコネクタを、モデムに接続します。
3. 電話回線ケーブルをモデムに接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、電話回線モジュラーコンセントに接続された電話回線ケーブルの、もう片方のコネクタをモデムの LINE 端子に接続します。
4. モデムの電源を接続します。
モデムの取扱説明書を参照し、モデムの電源（モデムに添付の AC アダプタ）をモデムに接続します。

▼ポイント

無停電電源装置をご使用になっている場合は、停電時の通信を可能にするために、モデムの電源プラグを無停電電源装置に接続することをお勧めします。

第6章 本製品の取り外し

この章は、リモートサービスボードの取り外し手順について説明しています。



感電

リモートサービスボードを取り外すときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。リモートサービスボードの AC アダプタも取り外してください。

感電の原因となります。



指示

- ・サーバ本体のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体に添付の取扱説明書にしたがって作業を進めてください。
- ・リモートサービスボードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

■取り外し手順

1. サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
2. リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。
LAN ケーブル、モデムが接続されている場合は、取り外します。
3. サーバ本体のカバーを取り外し、リモートサービスボードと本製品のケーブルをサーバ本体から取り外します。
4. 保管しておいたスロットカバーを取り付けます。
5. 取り外したサーバ本体のカバーを取り付けます。

👉ポイント

リモートサービスボードを取り外しても、ServerView（デバイスドライバ含む）、RemoteControlService をアンインストールする必要はありません。

付録

1 SERVICE PROCESSOR TOOL

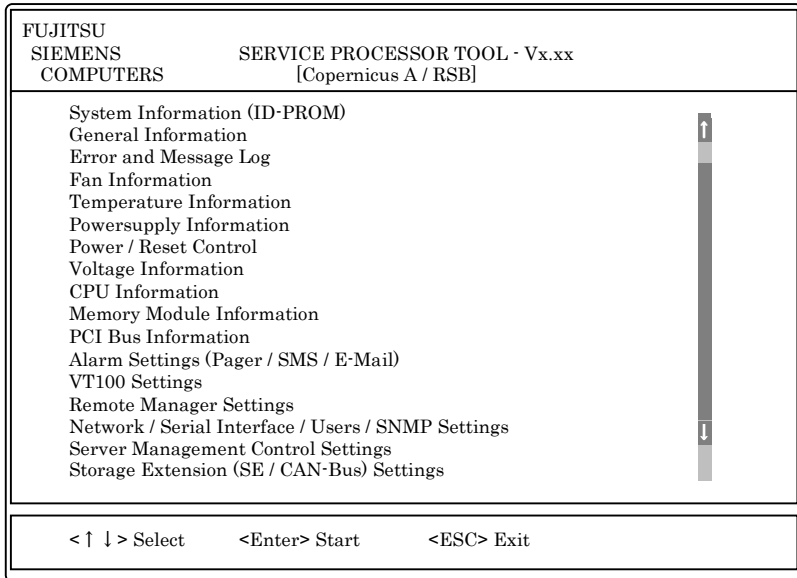
ここでは、Remote Service Board Utility に含まれる SERVICE PROCESSOR TOOL を使用して、リモートサービスボードに格納されるログの参照／保存／消去、および、版数の参照を行う方法について説明します。

1.1 SERVICE PROCESSOR TOOLの起動と終了

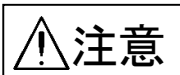
■ SERVICE PROCESSOR TOOL の起動手順

1. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
2. 表示されるメニューから、「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter]キーを押します。
MS-DOS が起動します。
3. サーバ本体のフロッピーディスクドライブに、Remote Service Board Utility をセットします。
4. 次のコマンドを入力します。
SERVICE PROCESSOR TOOL が起動します。

```
b:\sptool    [Enter]
```



5. [↑]または[↓]キーで各項目を選択して[Enter]キーを押すと、各項目の画面が表示されます。



SERVICE PROCESSOR TOOL では、以下の項目だけ使用できます。

- ・ Error and Message Log
- ・ General Information

その他の項目は、動作を保証しません。使用しないでください。

SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]	メニュー項目を選択します。
[Enter]	選択した項目を実行します。
[Esc]	SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面を終了し、起動画面に戻ります。

■ SERVICE PROCESSOR TOOL の終了手順

1. SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面で[Esc]キーを 1 回押します。DOS のプロンプトが表示され、フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていたら、電源切断を行ってもかまいません。

1.2 エラーログ／メッセージログの参照／保存／消去

エラーログ／メッセージログの参照／保存／消去は、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で行います。

■ ERROR AND MESSAGE LOG 画面の起動手順

1. SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。
2. 「Error and Message Log」を選択し、[Enter]キーを押します。ERROR AND MESSAGE LOG 画面が表示されます。

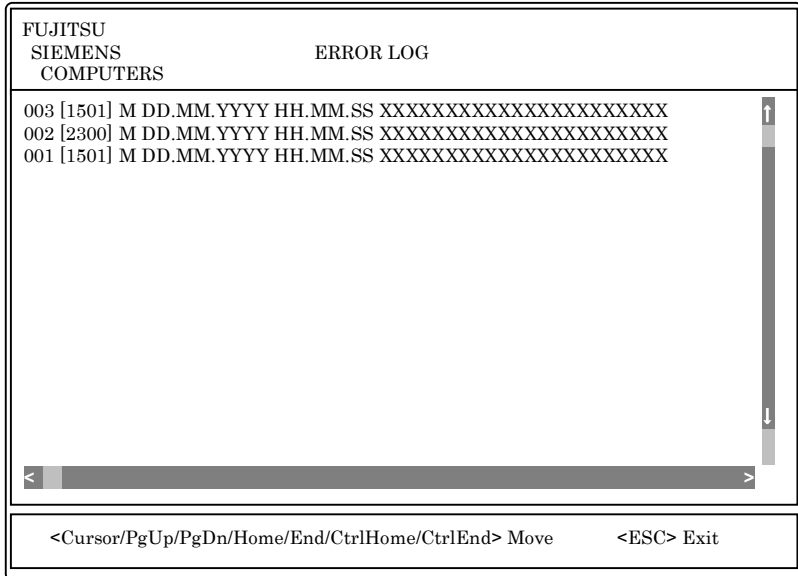
FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	ERROR AND MESSAGE LOG
Found 3 Errors and 7 Messages	
<F1> View ErrorLogSelect <F4> Clear Logs	<F2> View MessageLog <F3> Write to file <ESC> Exit

ERROR AND MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[F1]	エラーログを表示します。
[F2]	メッセージログを表示します。
[F3]	ログを保存します。
[F4]	ログを消去します。
[Esc]	ERROR AND MESSAGE LOG 画面を終了し、SERVICE PROCESSOR TOOL のメニュー画面に戻ります。

■ エラーログの表示

エラーログとは、システム内で発生した異常を格納するログです。
 エラーログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F1]キーを押すと表示されます。

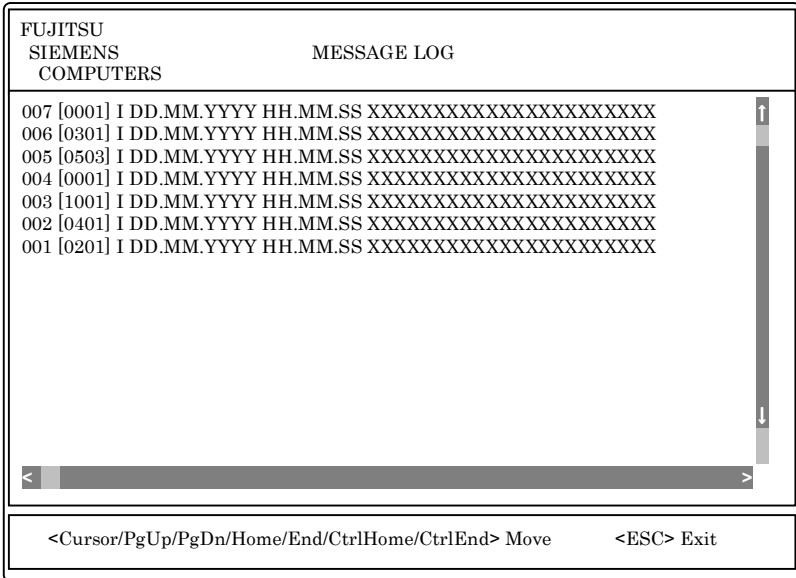


ERROR LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]、[←]、 [→]、[PageUp]、 [PageDown]、 [Home]、[End]、 [Home]+[Ctrl]、 [End]+[Ctrl]	画面をスクロールします。
[Esc]	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ メッセージログの表示

メッセージログとは、システム内で発生したイベントを格納するログです。メッセージログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F2]キーを押すと表示されます。



J

MESSAGE LOG 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
[↑]、[↓]、[←]、 [→]、[PageUp]、 [PageDown]、 [Home]、[End]、 [Home]+[Ctrl]、 [End]+[Ctrl]	画面をスクロールします。
[Esc]	ERROR LOG 画面を終了し、ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。

■ ログの保存

1. ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F3] キーを押します。
2. サーバ本体のフロッピーディスクドライブにセットした、Remote Service Board Utility を一旦取り出します。
3. フォーマット済みのフロッピーディスクを用意して、サーバ本体にセットします。
4. ログを保存するファイルのファイル名を入力します。
以下のように入力して、[Enter] キーを押します。

b:\xxxxxxxx.xxx

xxxxxxxx.xxx には任意のファイル名を指定できます。

5. フロッピーディスクに、手順3で指定したファイル名でログが保存され、次の画面が表示されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS
Log File has been written correctly.
Press any key

6. いずれかのキーを押します。
ERROR AND MESSAGE LOG 画面に戻ります。
7. SERVICE PROCESSOR TOOL を終了する場合は、[Esc] キーを2回押し
て SERVICE PROCESSOR TOOL を終了します。
SERVICE PROCESSOR TOOL を続けて使用する場合は、フロッピーディス
クをサーバ本体から取り出し、Remote Service Board Utility をセットします。

■ ログの消去

エラーログやメッセージログがいっぱいになると、古いログから順番に新しいログで上書きされるため、定期的にエラーメッセージやメッセージログを確認し、必要に応じてログを保存/消去してください。

ログは、ERROR AND MESSAGE LOG 画面で、[F4]キーを押すと消去できます。

1.3 版数の参照

版数の参照は、GENERAL INFORMATION 画面で行います。

■ GENERAL INFORMATION 画面の起動／表示

1. SERVICE PROCESSOR TOOL を起動します。
2. 「General Information」を選択し、[Enter]キーを押します。
GENERAL INFORMATION 画面が表示されます。

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	GENERAL INFORMATION
Local Cabinet Number (hex) : 0000 Service Processor Firmware Version: 0.1.1.20 Service Processor Chip Revision: Copernicus A Rev. B	
Press any key	

GENERAL INFORMATION 画面での表示内容を以下に示します。

表示	内容
Local Cabinet Number(hex)	キャビネット番号を示します。
Service Processor Firmware Version	ファームウェアの版数を示します。
Service Processor Chip Revision	ハードウェアの版数を示します。

2 留意事項

ここでは、リモートサービスボードをご使用になる上での留意事項について説明します。

2.1 電圧・温度センサ番号について

リモートサービスボードの電圧・温度センサ番号は、0 から割振ります。

このため、関連ソフトウェア（ServerView、RemoteControlService、Web Interface）で表示するサーバ本体の電圧・温度センサ番号、および、エラーメッセージ内の電圧・温度センサ番号は、リモートサービスボードの分をシフトしています。

電圧番号 : 4

温度センサ番号 : 1 または 3

下記は、リモートサービスボード搭載の有無による表示例です。

■本ボード未搭載時

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	CPU0	0	housing
1	CPU1	1	CPU
:	:	:	:

■本ボード搭載時

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	housing (本ボード上の温度)
1	RSB PCI Power	1	housing
2	RSB AUX Power	2	CPU
3	RSB Main Power	:	:
4	CPU0	:	:
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

または

[電圧]		[温度センサ]	
番号	名称	番号	用途
0	RSB ExtPower	0	RSB Inhouse (本ボード上の温度)
1	RSB PCI Power	1	Battery
2	RSB AUX Power	2	Battery Board
3	RSB Main Power	3	housing
4	CPU0	4	CPU
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

2.2 初期設定について

リモートサービスボードを搭載した場合、設定が次のようになります。

- ServerView の設定によるソフトウェアウォッチドック : 無効
- ServerView の設定による電源オン/オフタイマー : 無効

2.3 ServerViewのインストールについて

ServerView をインストールした直後、または、リモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。下記の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

ポイント

OS が Linux の場合には、本処理を行う必要はありません。

■ リモートサービスボードの確認

下記手順により、リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックし、ServerView を開きます。
2. “サーバの一覧ウィンドウ” から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。
3. “ServerView ウィンドウ” の各ボタンが有効であることを確認します。ServerView の初期処理に数分かかることがあります。[更新] ボタンをクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。
4. [アクション] ボタンをクリックします。

5. “アクションウインドウ”の [RSB] ボタンが無効である場合、《リモートサービスボードの再認識処理》を行います。

■ リモートサービスボードの再認識処理

下記手順により、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

- 1) OS を再起動します。
- 2) 《リモートサービスボードの認識》を行います。
なお、この再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、《ドライバの再インストール》を行います。

■ ドライバの再インストール

下記手順により、ドライバを再インストールします。

- 1) 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2) 実行中のアプリケーションを全て終了させます。
- 3) ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。この処理により、エージェントがアンインストールされます。
<CD-ROM のドライブ> : ¥Svmanage¥Japanese¥Unagent.exe
- 4) システムを再起動します。
- 5) ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。
<CD-ROM のドライブ> : ¥Svmanage¥Tools¥Addagent.exe
- 6) 「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。
- 7) 同時にインストールする他のエージェントを選択し、[OK] をクリックします。この処理により、デバイスドライバを含んだエージェントがインストールされます。デバイスドライバは、“Install ServerView agent”に含まれていません。
デバイスドライバのインストールは、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」にある“インストール”－“オプション装置の追加インストール処理”も併せて参照してください。
- 8) 《リモートサービスボードの確認》を行います。
なお、この再インストール処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、弊社担当保守員にご相談ください。

Introduction

This document describes how to handle the Remote Service Board Kit PG-RSBOP6 (simply called “this product” from here on).

This document describes how to handle this product.

Be sure to read this document before you use this product.

April, 2002

This Product is designed, developed and manufactured as contemplated for general use, including without limitation, general office use, personal use and household use, but is not designed, developed and manufactured as contemplated for use accompanying fatal risks or dangers that, unless extremely high safety is secured, could lead directly to death, personal injury, severe physical damage or other loss (hereinafter "High Safety Required Use"), including without limitation, nuclear power core control, airplane control, air traffic control, mass transport operation control, life support, weapon launching control. You shall not use this Product without securing the sufficient safety required for the High Safety Required Use. If you wish to use this Product for High Safety Required Use, please consult with our sale person in charge before such use.

Parts of this document may contain specific technology that falls under the Foreign Exchange and Foreign Trade Control Act. If a part of this document contains specific technology, authorization based upon the above law is required when this document is provided for export or to a non-resident.

MS-DOS is the registered trademark of Microsoft Corporation in the U.S. and other countries.

All Rights Reserved, Copyright Fujitsu Ltd. 2002

For Safe Use

This document describes important information for the safe and correct use of this product. Before you use this product, be sure to thoroughly read this document. In particular, be sure to thoroughly read and understand "Safety Precautions" at the beginning of the document. Store this document in a safe place so that it can be referred to during use.

Safety Precautions

To ensure safe use of this product, be sure to observe the particulars described from here on. This document uses the following indications to prevent damage or injury that may be inflicted on yourself or others.



Ignoring this indication and mishandling this product may result in death or serious injury.



Ignoring this indication and mishandling this product may cause personal injury and only physical damage.

■ If an abnormality should occur



Plug

If heat, smoke, odor, noise or other abnormality is detected on this product, immediately turn the power switch on the product OFF, and unplug the power plug from the power outlet.

Check that smoke is no longer being emitted from the product, and then contact a Fujitsu agent or Fujitsu maintenance person. The user must never repair this product by him or herself. Doing so is dangerous. Using this product in an abnormal state might cause fire or electric shock.

E

■ Operating environment conditions of the AC adapter



Caution

Temperature

Use the AC adapter attached to the remote service board in an environment that does not exceed the required condition of the AC adapter regardless of the operating state (during operation and during stoppage) of the server unit. In particular, turn air cooling on at night or on holidays as necessary in summer to prevent the ambient temperature from exceeding the required condition of the AC adapter. Failure to observe temperature conditions might cause fire or malfunction.

■ Handling of This Product



Warning

Electric shock

Before mounting or removing this product from the server unit, turn the power of the server unit and other connected devices OFF for safety's sake, and then unplug the power plug from the power outlet. Also, unplug the power plug of the AC adapter. If you mount or remove this product with power still ON, this product might malfunction, emit smoke, or cause electric shock.

Prohibited Actions

- This is a precision manufactured product. Avoid using or storing it in high or low temperatures, high humidity, direct sunlight or other extreme conditions. Also, do not bend or damage the product or subject it to strong impact. Doing so might cause malfunction, fire or electric shock.
- Do not damage or remodel the AC adapter. Also, if heavy objects are placed on the AC adapter, or the AC adapter is pulled, unnecessarily bent, twisted or heated, the power cable will be damaged, resulting in fire or electric shock.
- Do not insert or unplug the power plug with wet hands. Doing so might cause electric shock.
- Do not use the AC adapter when it is damaged or when the plug slots on the power outlet are loose. Using the AC adapter and power outlet in this state might cause fire or electric shock.

- Wipe off any dust on the AC adapter electrodes and plug slots on the power outlet using a dry cloth. Using the AC adapter and power outlet in this state might cause fire or electric shock.
- Use the AC adapter at only the indicated power voltages. Do not use at other power voltages. Also, never plug the AC adapter into a multi-plug power strip. Doing so might cause fire or electric shock.

Plug

If lightning has struck nearby, unplug the power cable or modular cable from the power outlet. If this product is used as it is, the lightning will damage this product, and cause fire.

Warning

When covers, caps, screws, batteries and other small items are removed from this product, place them in a location out of the reach of small children to prevent them from being swallowed. Consult a physician immediately if they are swallowed.

Disassembly

Do not modify this product without permission. Doing so might cause fire or electric shock.

Prohibited Actions

- Use only the AC adapter described in this manual. Do not use other AC adapters. Also, do not modify nor disassemble the AC adapter. Doing so might cause fire or personal injury.
- Do not cover or wrap the AC adapter in cloth during use. Doing so might cause heat buildup or cause fire.
- When unplugging the power plug, do not pull the cable. Be sure to hold the plug by its body. If the power cable is pulled, the core leads in the power cable may be exposed or broken, resulting in fire or electric shock.

Instructions

- Firmly insert the power plug into the power outlet as far as possible. Failure to do so might cause fire or malfunction.
- When this product is not used, store it in its packing bag (provided) to prevent the influence of static electricity.





Warning

When the batteries used on this product are removed, place them in a location out of the reach of small children to prevent them from being swallowed. Consult a physician immediately if they are swallowed.



Prohibited Actions

- Use only the batteries described in this manual. Do not use other batteries. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.
- Do not short circuit, heat, disassemble, or throw batteries in fire or water. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.
- Do not recharge dry cells. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.

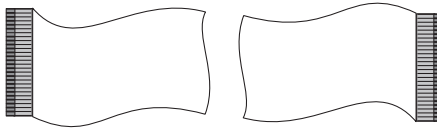
Instructions

When inserting the batteries, pay attention to the battery polarities, plus (+) and minus (-). Inserting the batteries with the polarities reversed might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.

Check the Contents of the Package

The following items are packed with this product. Before you use this product, make sure that the package contains all of these items. If there are any items missing, contact a Fujitsu Sales Office.

- Server control cable



- Power cable



- User's Manual (this manual)

Conventions Used in This manual

■ Conventions for Text Descriptions

The following conventions and symbol are used in text descriptions:

Server unit

This is the server in which this product is mounted.

 Point

This describes supplementary information for text descriptions.

Table of Contents


Chapter 1 Product Overview	1
Chapter 2 Mounting This Product	2
2.1 Preparations for Mounting This Product	3
2.1.1 Items to prepare	3
2.1.2 Checks	4
2.2 Mounting Product Components	5
2.2.1 PCI card and internal cable	5
2.2.1.1 Mounting on server unit	6
2.2.2 Connecting the AC adapter	8
2.2.3 Setting up system resources	9
2.2.4 Updating the firmware	10
Chapter 3 Installing the Driver	12
Chapter 4 Supported Software	13
Chapter 5 Connecting the LAN/Modem	14
5.1 Connecting the LAN Cable	14
5.2 Connecting the Modem	15
Chapter 6 Removing This Product	16
Appendix	17
1 SERVICE PROCESSOR TOOL	17
2 PRECAUTIONS	24

E

Chapter 1 Product Overview

This chapter describes the features of this product.

This kit is for mounting the remote service board on the server units. The cable for attaching the remote service board to the server mainframe is included in this kit.

 Point

The remote service board is a separate product (PGURSB101).
For details on remote service boards, refer to the User's Manual provided with the remote service board.
For details on how to mount this product, see "Chapter 2 Mounting This Product" in this manual.

Chapter 2 Mounting This Product

This chapter describes how to mount the remote service board and connect the cable for this product on the server unit.

To use the Remote Service Board, mount the Remote Service Board , install ServerView and connect the LAN/modem by the flow shown in the figure below.

1. Preparations
 - "2.1 Preparations for Mounting This Product"
- ↓
2. Mounting on Server Unit
 - "2.2.1 PCI card and internal cable"
 - 2.2.1.1 Mounting on server unit
- ↓
3. Connecting of AC Adapter
 - "2.2.2 Connecting of AC adapter"
- ↓
4. Setting Up System Resources
 - "2.2.3 Setting up system resources"
- ↓
5. Updating the Firmware
 - "2.2.4 Updating the firmware"
- ↓
6. Installing the Driver
 - "3 Installing the Driver"
- ↓
7. Connecting the LAN/Modem

When using a LAN → "5.1 Connecting the LAN Cable"

When using a modem → "5.2 Connecting the Modem"

2.1 Preparations for Mounting This Product

Prepare the following before you start to mount this product on the server unit.

2.1.1 Items to prepare

Before you start to mount this product, prepare the following:

- Remote service board
- User's Manual provided with the server unit
- ServerView CD provided with the server unit
- Floppy disk for starting up the hardware configuration tool
Create the MS-DOS bootup disk from the ServerStart CD-ROM. The following describes how to create the MS-DOS bootup disk. For details, refer to the "PRIMERGY Software Guide."
 1. Boot up the system from the ServerStart CD-ROM.
 2. Click "Floppy Builder" in the ServerStart screen.
 3. Click "Create a Hardware Configuration Tool Boot Floppy"
Follow the on-screen message, and insert the "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" attached with the server unit into the floppy disk drive.
 4. From here on, continue the procedure following the on-screen messages.
The floppy disk will be automatically formatted, and copying of files will begin.
- Remote Service Board Utility
Create this utility from the ServerView CD-ROM following the procedure below.
 1. Prepare a formatted floppy disk.
 2. Copy all of the files in the following directory on the ServerView CD-ROM to a floppy disk.
<CD-ROM drive> : \Svmanage\Tools\RSBFlash
 3. Display the command prompt screen from the Start menu.
Windows NT
Click "Start" - "Program" - "Command Prompt".
Windows 2000
Click "Start" - "Program" - "Accessory" - "Command Prompt".
 4. Enter the following commands in the command prompt screen.
a : [Enter]
abset [Enter] (Changes file attributes)
 5. Remove the floppy disk, and enable write protection.




Point

Refer to the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM version V03.10L10 or newer for information on how to create the Remote Service Board Utility in a Linux system.

2.1.2 Checks

Before you start work, check the following to make sure that they apply.

- The ServerView power ON/OFF timer is enabled by ServerView.

 Point

Disable the power ON/OFF timer.

When the remote service board is installed and the timer function is enabled, the timer function does not operate correctly. To use the timer function, set the timer after installing the remote service board.

The power ON/OFF timer setting window can be opened by the following procedure:

1. Open the information of the target server from ServerView.
2. Click the [Power Supply] button.
3. Click the [Set Power ON/OFF Timer] button.

2.2 Mounting Product Components

This section describes the procedure for mounting the remote service board and connecting the cable for this product.

Before you start to mount this product, refer to "2.1 Preparations for Mounting This Product" and carry out the required preparations.

2.2.1 PCI card and internal cable

This item describes the procedure for mounting the remote service board and connecting the cable for this product.



Electric shock

Before mounting or removing this product from the server unit, turn the power of the server unit and other connected devices OFF for safety's sake, and then unplug the power plug from the power outlet. Also, unplug the power plug of the AC adapter. If you mount or remove this product with power still ON, this product might malfunction, emit smoke, or cause electric shock.



Instructions

- When removing or attaching the covers on the server unit, follow the instructions in the User's Manual provided with the server unit.
- The PCI card on this product is easily affected by static electricity. Either place the card on an electroconductive pad, or put it in its packing bag immediately after it is removed or immediately before it is handled.

E

2.2.1.1 Mounting on server unit

This item describes the procedure for mounting the remote service board and cable for this product on the server unit.



Instructions

When removing or attaching the covers on the server unit, follow the instructions in the User's Manual provided with the server unit.

■ Mounting procedure

1. Refer to the User's Manual provided with the server unit to attach the remote service board and the server control cable and power cable that are provided with this product.

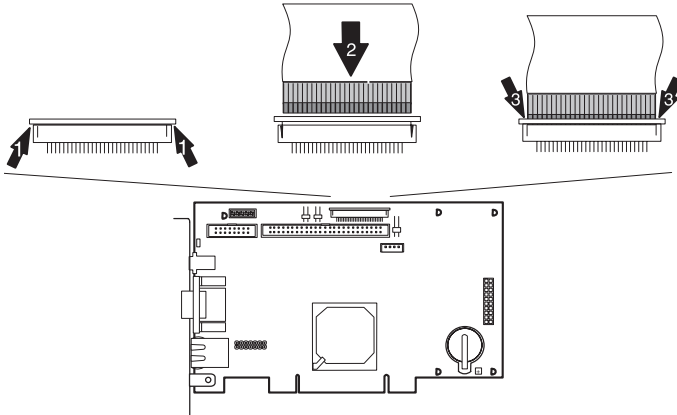
Point

When you attach the remote service board, it sometimes takes about one minute for the screen to be displayed after you turn the server unit ON. This happens when the server waits for the remote service board to boot up to establish communications between BIOS and the remote service board. This is not a malfunction. Wait until the screen is displayed.

■ Attaching the server control cable

When connecting the server control cable to the remote service board, make sure that the cable pins (side on which blue tape is not affixed) are at the remote service board.

Slide the lock upwards to unlock (arrow 1), insert the server control cable as far as possible (arrow 2), and lower the lock to fix in place (arrow 3).



2.2.2 Connecting the AC adapter

You can use an AC adapter with the remote service board. The detailed information about the AC adapter that can be used with the remote service board is described in the User's Manual provided with the remote service board.



Prohibited Actions

- Do not damage or remodel the AC adapter. Also, if heavy objects are placed on the AC adapter, or the AC adapter is pulled, unnecessarily bent, twisted or heated, the power cable will be damaged, resulting in fire or electric shock.
- Do not insert or unplug the power plug with wet hands. Doing so might cause electric shock.
- Do not use the AC adapter when it is damaged or when the plug slots on the power outlet are loose. Using the AC adapter and power outlet in this state might cause fire or electric shock.
- Wipe off any dust on the AC adapter electrodes and plug slots on the power outlet using a dry cloth. Using the AC adapter and power outlet in this state might cause fire or electric shock.
- Use the AC adapter at only the indicated power voltages. Do not use at other power voltages. Also, never plug the AC adapter into a multi-plug power strip. Doing so might cause fire or electric shock.



Prohibited Actions

- Use only the AC adapter described in this manual. Do not use other AC adapters. Also, do not modify nor disassemble the AC adapter. Doing so might cause fire or personal injury.
- Do not cover or wrap the AC adapter in cloth during use. Doing so might cause heat buildup or cause fire.

Temperature

Use the AC adapter attached to the remote service board in an environment that does not exceed the required condition of the AC adapter regardless of the operating state (during operation and during stoppage) of the server unit. In particular, turn air cooling on at night or on holidays as necessary in summer to prevent the ambient temperature from exceeding the required condition of the AC adapter. Failure to observe temperature conditions might cause fire or malfunction.

■ Connecting procedure

1. Connect the AC adapter into the remote service board.
Connect the AC adapter's power plug to the external power connector of the remote service board.
2. Plug the AC adapter's power plug into the power outlet.

Point

The remote service board operates by power supplied from the AC adapter or from the server unit. The AC adapter, however, is required for monitoring server power supply errors. To improve reliability, we recommend that the power plug of the AC adapter for the remote service board is connected to a power supply different from that to which the server unit's power plug is connected.

2.2.3 Setting up system resources

After attaching the remote service board on the server unit, check the setup of the system resources.

The system resources that can be assigned to this product are sometimes restricted. Refer to the user's guide provided with the server unit, and check the system resources assignment restrictions.

After attaching this product on the server, check the system resources assigned to this product, and change them as necessary.

For details on how to check and change the system resources assigned to this product, refer to the user's guide provided with the server unit.

2.2.4 Updating the firmware

The following describes the procedure for updating the Remote Service Board firmware. When updating the firmware, also make the initial setups.

Be sure to execute this procedure.

■ Updating procedure

1. Insert the "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" in the floppy disk drive, and turn on the server.
2. Select "Basic (RAIDUTIL)" from the menu that is displayed, and press the [Enter] key.

MS-DOS is started up.

3. Insert Remote Service Board Utility into the floppy disk drive on the server unit.
4. Update the firmware.

Enter the following command:

```
b: \ flashrsb [Enter]
```

5. Check that the update has ended.

When the update ends normally, the following message is displayed:

```
OK: Firmware flash successfully finished
```

If the update files, the following message is displayed:

```
ERROR: Firmware flash failed
```

6. When the update has ended normally, check the firmware version. The newly updated version is displayed in the message that appears when processing is started.

```
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx
```

Enter the following command. For details on how to reference the version, see "Appendix 1.3 Referencing the Version" in this manual.

```
b: \ sptool [Enter]
```

■ Re-update Procedure

If the firmware update fails, re-update the firmware. If the server no longer starts up, perform the following.

1. Turn the server and peripherals off, and disconnect the power cable from the server.
2. Disconnect the AC adapter from the Remote Service Board.
3. Wait at least ten seconds before reconnecting the AC adapter to the Remote Service Board.
4. Connect the power cable to the server, and turn on the server and peripherals.
5. Re-update the software.

If this product does not function normally after performing the above procedure, remove this product and contact a Fujitsu service engineer.

Point

The following messages are displayed when updating firmware if the Remote Service Board Utility was created without setting the file attributes. Update the firmware again after setting the file attributes.

Error: File <core.bin> could not be opened!

Error: Firmware flash failed

Chapter 3 Installing the Driver

This chapter describes how to install the driver for the remote service board. The driver for the remote service board is included in the following software:

- ServerView V03.02 or later

 Point

The Remote Service Board device driver is included in ServerView. Be sure to install ServerView on the server unit to use the Remote Service Board.

With Windows 2000, the hardware detection wizard screen is sometimes displayed when the OS is booted up. If this happens, perform the following:

- When "Welcome to the Found New Hardware Wizard" is displayed, select [Cancel].
- When "Completing the Found New Hardware Wizard" is displayed, select [Finish].

When the server mentioned above is already installed, or after the server mentioned above has been installed, do the process described in "Hint 2.3 ServerView Installation."

ServerView is stored on the ServerView CD provided with the server unit.

For details on how to install ServerView, refer to the "PRIMERGY Software Guide" provided with the server unit.

For details on how to use ServerView, refer to the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

Chapter 4 Supported Software

This chapter describes the software (ServerView and RemoteControlService) that is supported on the remote service board.

The following software are supported on the remote service board.

- **ServerView V03.02 or later**


This software allows you to monitor the server state and remote control the server.

 **Point**

The Remote Service Board device driver is included in ServerView. In monitoring of server states and remote control by the Remote Service Board, some processes are achieved by linkage with a ServerView agent. When using the Remote Service Board, be sure to install ServerView on the server body.


- **RemoteControlService V3.00 or later**

This software allows you to display the server unit's screen during POST processing or enter values on the keyboard from the administrator's terminal.

 **Point**

Install RemoteControlService on the administrator's terminal to remote control the BIOS setup utility, for example.

ServerView and RemoteControlService are stored on the ServerView CD provided with the server unit.

 **Point**

When RemoteControlService V2.05 or older is already installed, uninstall the old version before installing RemoteControlService V3.00 or newer.

For details on how to install ServerView and RemoteControlService, refer to the "PRIMERGY Software Guide" provided with the server unit.

For details on how to use ServerView and RemoteControlService, refer to the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

Chapter 5 Connecting LAN/Modem

This chapter describes how to connect the LAN or modem to the remote service board. The remote service board can be accessed and from the administrator's terminal to control the server, or error notices (SNMP trap, E-mail, or pager) can be sent from the remote service board by connecting the LAN or modem to the remote service board.



Caution

The following user account is set to the remote service board as the default. Before you start operations, be sure to change this password. For details on how to change the password, refer to the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

User name: root Password: fsc

Point

The LAN cable, external modem and RS-232C cable for the modem are options, and are not provided with this product.

5.1 Connecting the LAN cable

This item describes the procedure for connecting the LAN cable to the remote service board.

Point

The following IP address is set to the remote service board as default. Before you connect the remote service board to the network, change the IP address as required.

For details on how to change the password, refer to the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

IP address : 192.168.0.10
Subnet mask : 255.255.255.0

■ Connecting procedure

1. Connect the LAN cable to the remote service board.
Connect the connector of the LAN cable you have prepared to the 10/100BASE-TX connector of the remote service board.
2. Connect the other connector to a hub or router.

5.2 Connecting the Modem

This item describes the procedure for connecting the modem to the remote service board.



Electric shock

Before connecting the modem, turn OFF the server unit and peripheral devices, and disconnect the power cable from the power outlet.

Failure to do so might cause electric shock.

■ Connecting procedure

1. Connect the RS-232C cable to the remote service board.
Connect the RS-232C cable connector (9-pin) to the serial port connector on the remote service board.
2. Connect the RS-232C cable to the modem.
Referring to the User's Manual for the modem, connect the other connector to the modem.
3. Connect the telephone line cable to the modem.
Referring to the User's Manual for the modem, connect the other connector of the telephone line cable connected to the telephone line modular jack to the LINE terminal on the modem.
4. Connect the modem's power supply.
Referring to the User's Manual for the modem, connect the modem's power supply (AC adapter provided with the modem) to the modem.

👉 Point

When an uninterruptable power supply (UPS) is in use, we recommend connecting the modem's power plug to the UPS to enable communications in the event of a power interruption.

Chapter 6 Removing This Product

This chapter describes the procedure for removing the remote service board.



Electric shock

Before you remove the remote service board, turn OFF the server unit and peripheral devices, and disconnect the power cable from the server unit. Also, disconnect the AC adapter from the remote service board.

Failure to do so might cause electric shock.



Instructions

- When removing or attaching the covers on the server unit, follow the instructions in the User's Manual provided with the server unit.
- The remote service board is easily affected by static electricity. Either place the board on an electroconductive pad, or put it in its packing bag immediately after it is removed or immediately before it is handled.

■ Removal procedure

1. Turn OFF the server unit and peripheral devices, and disconnect the power cable from the server unit.
2. Disconnect the AC adapter from the remote service board. Disconnect the LAN cable or modem if connected.
3. Remove the server unit covers, and remove the remote service board and cables for this product from the server unit.
4. Attach the slot covers that you have kept stored.
5. Attach the server unit covers that you removed in step 3.



Point

ServerView (including device driver) and RemoteControlService need not be uninstalled even if the remote service board has been removed.

Appendix

1 SERVICE PROCESSOR TOOL

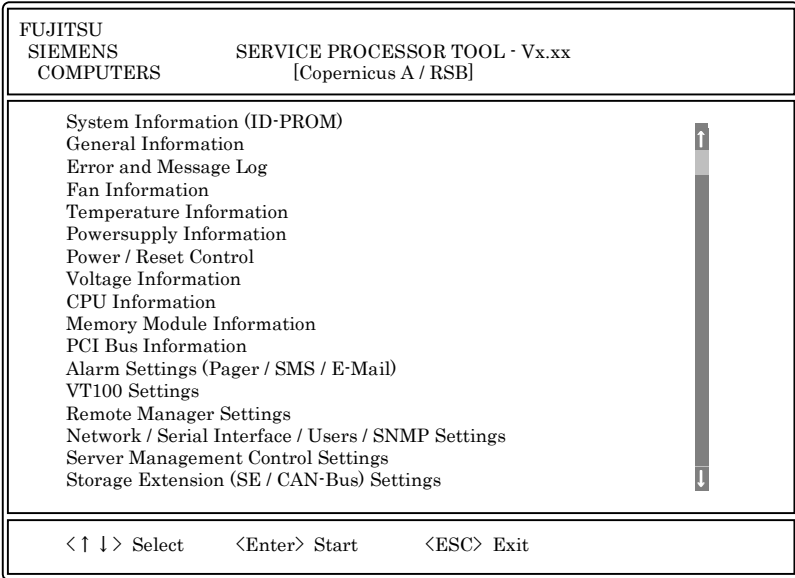
The following describes how to browse, save, and erase the logs that are stored on the Remote Service Board using SERVICE PROCESSOR TOOL included with the Remote Service Board Utility.

1.1 Starting Up and Quitting the SERVICE PROCESSOR TOOL

■ Startup procedure

1. Insert the "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" in the floppy disk drive, and turn on the server.
2. Select "Basic (BIOS Environment Support Tools)" from the menu that is displayed, and press the [Enter] key.
MS-DOS is started up.
3. Insert Remote Service Board Utility into the floppy disk drive on the server unit.
4. Enter the following command:
The SERVICE PROCESSOR TOOL is started up.
b: \ sptool [Enter]

E



5. Select the desired item using the [↑] or [↓] key, and press the [Enter] key. This displays the screen for the desired item.



Caution

Only the following items can be selected in the SERVICE PROCESSOR TOOL.

- Error and Message Log
- General Information

Do not use other items as their operation cannot be assured.

The following table summarizes key operations available on the SERVICE PROCESSOR TOOL menu screen.

Key	Function of the key
[↑], [↓]	Selects menu items.
[Enter]	Applies the selected item.
[Esc]	Exits the SERVICE PROCESSOR TOOL menu screen and returns to the startup screen.

■ Quitting procedure

1. Press the [Esc] key once in the SERVICE PROCESSOR TOOL menu screen. The DOS prompt is displayed. When the floppy disk access lamp goes out, the power may be turned OFF.

1.2 Viewing, Saving and Clearing Error Logs and Message Logs

View, save and clear error logs and message logs in the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

■ Displaying the ERROR AND MESSAGE LOG screen

1. Start up the SERVICE PROCESSOR TOOL.
2. Select "Error and Message Log" and press the [Enter] key. This displays the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	ERROR AND MESSAGE LOG
Found 3 Errors and 7 Messages	
<F1> View ErrorLogSelect <F2> View MessageLog <F3> Write to file <F4> Clear Logs <ESC> Exit	

The following table summarizes key operations available on the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

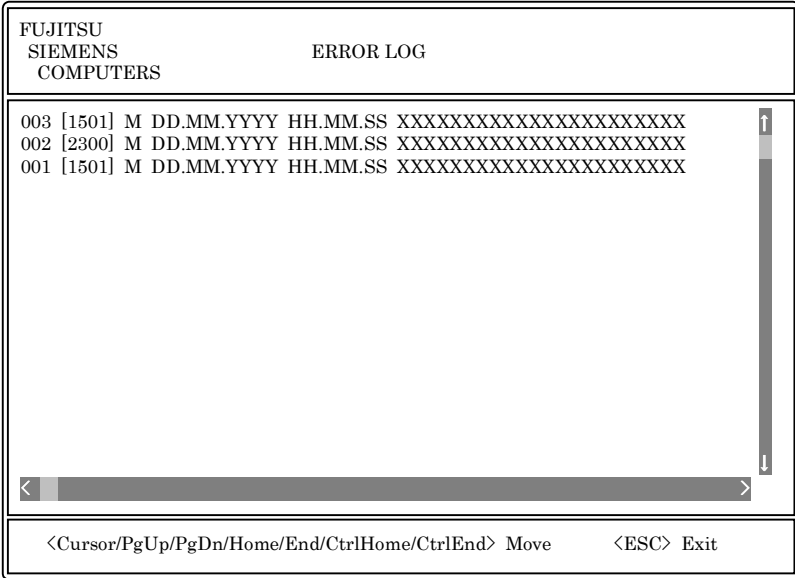
Key	Function of the key
[F1]	Displays error logs.
[F2]	Displays message logs.
[F3]	Writes logs to file.
[F4]	Clears logs.
[Esc]	Exits the ERROR AND MESSAGE LOG screen and returns to the SERVICE PROCESSOR TOOL menu screen.

E

■ Displaying error logs

Error logs are for storing errors that occurred internally on the system.

To display error logs, press the [F1] key on the ERROR AND MESSAGE LOG screen.



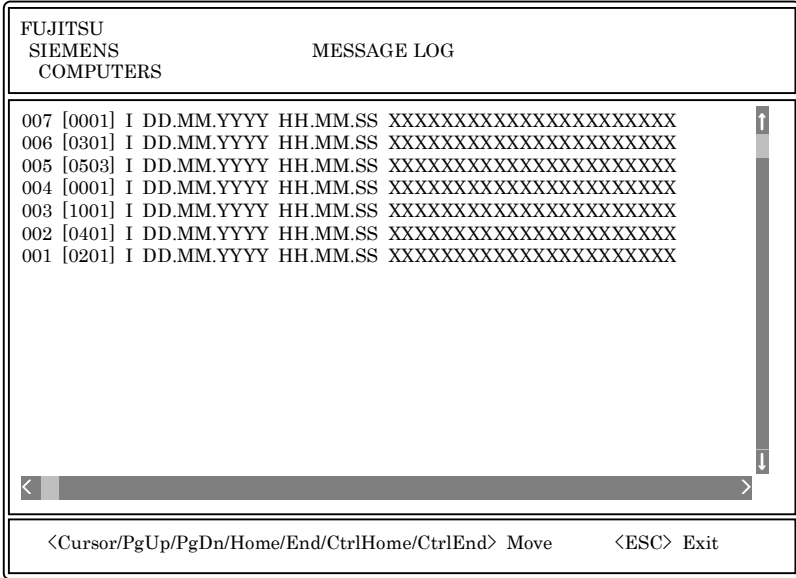
The following table summarizes key operations available on the ERROR LOG screen.

Key	Function of the key
[↑], [↓], [←], [→], [PageUp], [PageDown], [Home], [End], [Home]+[Ctrl], [End]+[Ctrl]	Scrolls the screen.
[Esc]	Exits the ERROR LOG screen and returns to the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

■ Displaying message logs

Message logs are for storing events that occurred internally on the system.

To display message logs, press the [F2] key on the ERROR AND MESSAGE LOG screen.



The following table summarizes key operations available on the MESSAGE LOG screen.

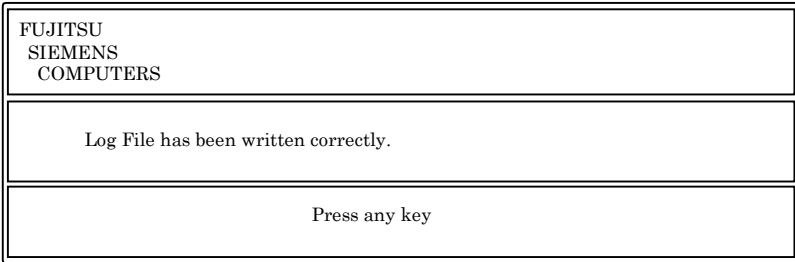
Key	Function of the key
[↑], [↓], [←], [→], [PageUp], [PageDown], [Home], [End], [Home]+[Ctrl], [End]+[Ctrl]	Scrolls the screen.
[Esc]	Exits the MESSAGE LOG screen and returns to the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

■ Saving logs

1. Press the [F3] in the ERROR AND MESSAGE LOG screen.
2. Remove Remote Service Board Utility that you inserted into the floppy disk drive on the server unit.
3. Prepare a formatted floppy disk and insert this into the floppy disk drive.
4. Enter the name of the file to write the log to.
Enter the following, and press the [Enter] key.
b: \ xxxxxxxx.xxx

You can specify any file name for "xxxxxxx.xxx".

5. The log is saved on floppy disk under the file name that you specified in step 4 above, and the following screen is displayed:



6. Press any key.
This returns the screen to the ERROR AND MESSAGE LOG screen.
7. To quit SERVICE PROCESSOR TOOL, press the [Esc] key twice.
To continue using SERVICE PROCESSOR TOOL, remove the floppy disk from the server unit, and insert Remote Service Board Utility.

■ Clearing logs

When the error log or message log becomes full, the oldest error or message in the log is overwritten with a new error or message. For this reason, periodically check the error log and message log, and write or clear the logs as necessary.

To clear a log, press the [F4] key on the ERROR AND MESSAGE LOG screen.

1.3 Referencing the Version

Reference the version on the GENERAL INFORMATION screen.

■ Starting Up/Displaying the GENERAL INFORMATION screen

1. Start up SERVICE PROCESSOR TOOL.
2. Select "General Information" and press the [Enter] key.

The GENERAL INFORMATION screen is displayed.

FUJITSU SIEMENS COMPUTERS	GENERAL INFORMATION
Local Cabinet Number (hex) : 0000 Service Processor Firmware Version: 0.1.1.20 Service Processor Chip Revision: Copernicus A Rev. B	
Press any key	

The following table shows the content displayed on the GENERAL INFORMATION screen.

Display	Description
Local Cabinet Number(hex)	Displays the cabinet No.
Service Processor Firmware Version	Displays the firmware version.
Service Processor Chip Revision	Displays the hardware version.

E

2 PRECAUTIONS

The following describes precautions when using the remote service board.

2.1 Voltage/Temperature Sensor No.

Voltage/temperature sensor Nos. on the remote service board are assigned from 0.

For this reason, the voltage/temperature sensor Nos. of the server unit displayed in related software (ServerView, RemoteControlService, Web Interface) and the voltage/temperature sensor Nos. in error messages shift by the number of remote service boards.

Voltage No.: 4
 Temperature sensor No.: 1 or 3

The following are examples of displayed according to the number of remote service boards mounted.

■ When this board is not mounted

[Voltage]		[Temperature sensor]	
No.	Name	No.	Application
0	CPU0	0	housing
1	CPU1	1	CPU
:	:	:	:

■ When this board is mounted

[Voltage]		[Temperature sensor]	
No.	Name	No.	Application
0	RSB ExtPower	0	housing (temperature on this board)
1	RSB PCI Power	1	housing
2	RSB AUX Power	2	CPU
3	RSB Main Power	:	:
4	CPU0	:	:
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

or

[Voltage]		[Temperature sensor]	
No.	Name	No.	Application
0	RSB ExtPower	0	RSB Inhouse(temperature on this board)
1	RSB PCI Power	1	Battery
2	RSB AUX Power	2	Battery Board
3	RSB Main Power	3	housing
4	CPU0	4	CPU
5	CPU1	:	:
:	:	:	:

2.2 Initial Setup

Setup is as follows when the remote service board is installed.

- Software Watchdog with ServerView setup : Disabled
- Power ON/OFF Timer with ServerView setup : Disabled

2.3 ServerView Installation

Immediately after installing ServerView, or immediately after mounting the remote service board when starting the OS, ServerView may not recognize the remote service board. If this happens, follow the procedure below to do the confirm, re-recognize and reinstall processes.



Point

This process does not need to be done for Linux operating systems.

■ Remote Service Board Confirmation

Confirm whether the remote service board is recognized by ServerView according to the following procedure.

1. Open ServerView by clicking [Start]-[Program]-[Fujitsu ServerView]-[Fujitsu ServerView].
2. Select the target server from the “Server List window” and double click it.
3. Confirm that each of the buttons on the “ServerView window” are enabled. It will take a few minutes to initialize ServerView. Click [Refresh] and wait for each button to be enabled.
4. Click the [Recovery] button.
5. If the [RSB] button in the “Recovery window” is not enabled then do the <<Remote Service Board Re-recognition Process>>.

■ Remote Service Board Re-recognition Process

Do the remote service board is re-recognition process according to the following procedure.

- 1) Restart the OS
- 2) Do <<Remote Service Board Confirmation>>.

After doing the re-recognition process, if the remote service board is not recognized do <<Reinstall Driver>>.

■ Reinstall Driver

Reinstall the driver according to the following procedure.

- 1) Log on as an administrator or as a user having the same privileges as an administrator.
- 2) Exit all currently executing applications.
- 3) Start up the following from the ServerView CD-ROM. This uninstalls agents.
<CD-ROM drive> : \Svmanage\English\Unagent.exe
- 4) Reboot the system.
- 5) Start up the following from the ServerView CD-ROM.
<CD-ROM drive> : \Svmanage\Tools\Addagent.exe
- 6) The Agent Installation Actions dialog box is displayed.
- 7) Select other agents to install at the same time, and click [OK]. This installs agents including the device driver. The device driver is contained in "Install ServerView agent".

For details on installing the device driver, also read "Installing Additional Optional Devices" under "Installation" in the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

- 8) Do <<Remote Service Board Confirmation>>.
After reinstalling, if the remote service board is not, contact a Fujitsu service engineer.

PRIMERGY
リモートサービスボード搭載キット
(PG-RSBOP6)
取扱説明書

Remote Service Board Kit
(PG-RSBOP6)
USER'S GUIDE

P3FY-1890-03

発行日 2002年4月
発行責任 富士通株式会社

Published by Fujitsu, Ltd., April, 2002

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
- Contents of this book are subject to change for improvement without notice.
- The publisher won't be responsible or liable for any infringement on patent rights or other rights of the third parties resultig from unauthorized use of data appearing in this book.
- No part of this book may be reproduced in any from without permission.
- If there is any missing page in this book or the pages are out of order, the book will be exchanged by the pulisher on request.



このマニュアルは再生紙を使用しています。